

お取引様 各位

平成 23 年 7 月 22 日

(有)興農ファーム

TEL0153-84-2358

FAX0153-84-2022

家畜飼料と今後について

貴社益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

いつも当社の商品を御愛顧下さいましてありがとうございます。

この度、関東東北大震災並びに福島原発事故により大変な事態となっております。被災された方々には、衷心よりお見舞い申し上げますと同時に、この困難な事態を打開し復興に向けて共に鋭意努力していきたいと思っております。

とりわけ、今現在、福島で飼育されていた牛からセシウムの検出が明らかになり、日に日にその範囲は広がってきております。各地よりお問合せが来ておりまして、当方で飼料全般につきまして情報を公開し、安全安心の食料供給の責任を果たしていくべく、文書をお届けいたします。

弊社で飼育している牛と豚の飼料は、国産（道内産が主）が約 85%で、輸入物が約 15%となっております。国産飼料は小麦・大豆・雑豆・ビートパルプ・もみ殻・米糠・じゃがいも・酒粕・醤油粕・糖蜜等で輸入穀物はトウモロコシ・大麦・燕麦で、牛豚共に発酵飼料にして給餌しています。牛の牧草の割合は 15%前後で、自家産で化学肥料・農薬等化学物質の一切入らない堆肥のみで育った牧草を給与しています。今のところ放射線の被爆の可能性はないと判断しています。

当農場から約 30km 離れたところの中標津町にある根釧農業試験場では、放射線量の測定を長年継続して計測しており、そのデータによりますと、過去 3 年間の記録とほとんど変わらない数値で推移しており、この地域まで今回の放射線の放出の影響は出ていないと言って良いと思われま（北海道農政部で情報を公開しています）。因みに 7 月 11 日の測定値がヨウ素は未検出、セシウム 137 は 11.7 ベクレルで、北海道のこの 3 年間の数値が 14~19 ベクレルで非常に低い数値ですが、これが検出されるのは、チェルノブイリの事故の影響だろうと言われています。また、この 11.7 ベクレルを放射線量に換算すると 0.000152 ミリシーベルトとのことにて、極めて低い数字であることは確かですので、この地域の牧草については心配ありません。

ただ今後につきましては、様々な要素が絡んできますので、飼料の入荷先でのチェックと合わせて、食肉そのものの検査まで踏み込んでいく必要もあろうかと考えておりますが、個別対応できるような内容でもありません。屠場である畜産公社で全頭検査を実施してもらうのが一番良いのですが、それもまた大変な作業になりますし、その仕組みを作るにはまた相当な時間とお金のかかることになります。今のところその予定はないとの回答をいただいております。事態を冷静に見守りしかるべき対応はしていきたいと考えております。

とりあえずの今現在の状況についてご報告です。状況の推移を見ながら随時お知らせ等をお届けいたします。大変な時代となってしまいました。何かありましたらご一報くださいますよう、今後ともよろしく願っています。